

交通安全NEWS

Monthly Report

2025. 9

特集 「内輪差・外輪差」を意識した安全運転

日ごろの車の運転で「内輪差・外輪差」を意識していますか。例えば左折する際は、車両の左後方を走る二輪車の巻き込みや縁石への乗り上げなどに注意することが「内輪差」も意識した運転になります。

車が曲がる時の「内輪差・外輪差」を理解し、事故を起こさないための安全運転について考えます。

旋回時に前部がガードパイプと接触



1 「内輪差・外輪差」とは

「内輪差・外輪差」とは、図1に示すように、車両が曲線を描くときの**前輪と後輪の走行半径の差**です。

「内輪差・外輪差」は、計算ができます。ある乗用車を例に「内輪差」を計算すると次のようになります。
ホイールベース：2.6m、トレッド：1.5m、最小回転半径：5mの場合、内輪差は、約1.03mとなります。

実際に運転をしているときの「内輪差」の目安は、**ホイールベースの1/3**といわれています。ホイールベースが2.6mであれば、内輪差は、約0.9mとなります。このように乗用車であっても、内輪差は1m程度あり、内側に二輪車が走行している場合には、空間を塞ぐ幅となります。

《右振り左折に注意》

「内輪差」を意識するあまり、生活道路などの狭い道で、図2のように、車の**頭を右側に振って左折**をするドライバーを見かけます。このような運転は、対向車との衝突や後続車からの追突のリスクがあります。

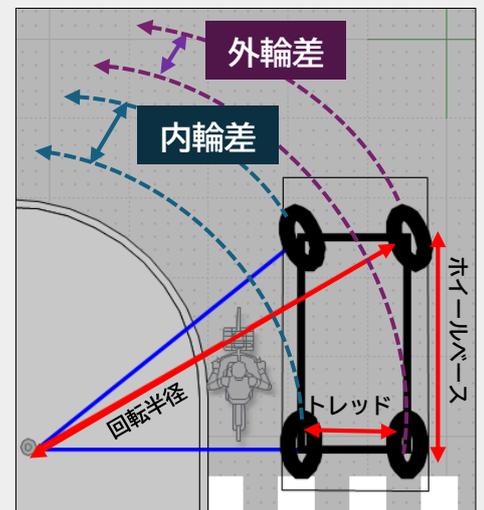


図1. 内輪差・外輪差



図2. 右振り左折